



お月見の行事

令和 7 年 10 月 6 日
北空知圏学校給食センター

秋は空がすみわたり、月が美しく見えることから「十五夜(今年は10月6日)」にお月見をします。この時期は、お米や野菜、果物などがたくさんとれる「収穫の季節」です。人々は自然の恵みや農作物が無事に育ったことに感謝し、収穫した食べ物をお供えするようになりました。お月見には、すすきや団子を飾る風習があります。

すすきを飾る意味

すすきは、稲穂に似ていることから豊作を願う象徴とされています。また、魔除けの意味もあり、家の玄関や窓辺に飾ることで邪気を払うといわれています。

月見団子の数

団子の数は十五夜にちなんで「15個」並べるのが一般的です。三方という台に、ピラミッドのように積み上げて供えます。



今日の給食で「もちっとうさぎ」がつきます。よくかんで食べよう。

